

取扱いの趣旨

I g G 4 は、免疫グロブリン G (I g G) の 4 種のサブクラスの 1 種であり I g G 4 関連疾患で高値を示すため、特異的な変動が見られない胆嚢炎等に対する算定は、原則として認められない。

支払基金が公表している取扱いの全文

【検査】 《令和6年7月31日》

259 I g G 4 の算定について

○ 取扱い

- ① 次の傷病名に対する D014「41」 I g G 4 の算定は、原則として認められる。
(1) ミクリッツ病 (2) 自己免疫性膵炎 (3) 後腹膜線維症
(4) リーデル甲状腺炎 (5) キュットネル腫瘍 (6) I g G 4 関連疾患のみ
- ② 治療中（ステロイド投与初期）の D014「41」 I g G 4 の連月の算定は原則として認められる。
- ③ 経過観察時の D014「41」 I g G 4 の算定は、原則として 3 か月に 1 回認められる。
- ④ 次の傷病名に対する D014「41」 I g G 4 の算定は、原則として認められない。
(1) 胆嚢炎 (2) 腎臓病 (3) 肺炎 (4) 肝疾患 (5) 後腹膜炎 (6) 硬膜炎

○ 取扱いを作成した根拠等

I g G 4 は、免疫グロブリン G (I g G) の 4 種のサブクラスの 1 種で、 I g G 4 関連疾患で高値を示す。

①に掲げる傷病名（ミクリッツ病、自己免疫性膵炎、後腹膜線維症、リーデル甲状腺炎、キュットネル腫瘍）は、いずれも I g G 4 関連疾患であり、高 I g G 4 血症が診断基準の一つとされている。

以上のことから、ミクリッツ病、自己免疫性膵炎、後腹膜線維症、リーデル甲状腺炎、キュットネル腫瘍、 I g G 4 関連疾患のみに対する当該検査の算定は、原則として認められると判断した。

一方、④に掲げる傷病名（胆嚢炎、腎臓病、肺炎、肝疾患、後腹膜炎、硬膜炎）では、 I g G 4 関連疾患に特異的な変動が見られないことより、これらの傷病名に対する算定は原則として認められないと判断した。

なお、 I g G 4 関連疾患に対してはステロイド投与が有効であることより、ステロイド投与開始初期における、当該検査の連月の算定は原則として認められるが、病状が安定した各疾患の経過観察期間は、3 か月に 1 回の当該検査が妥当と判断される。

グラフの見方

1 棒グラフ（該当レセプトの審査結果）

当該事例の取扱いの対象となる診療行為（医薬品、特定器材）を算定している目視対象レセプト
1万件当たり、取扱いの趣旨に該当するレセプト件数

2 折れ線グラフ

取扱いの趣旨に該当するレセプトのうち、
査定・返戻となった割合

【棒グラフ凡例】 審査の結果

査定	返戻	: 取扱いどおり
請求どおり 職員	請求どおり 審査委員	: 検証が必要

審査結果の概要

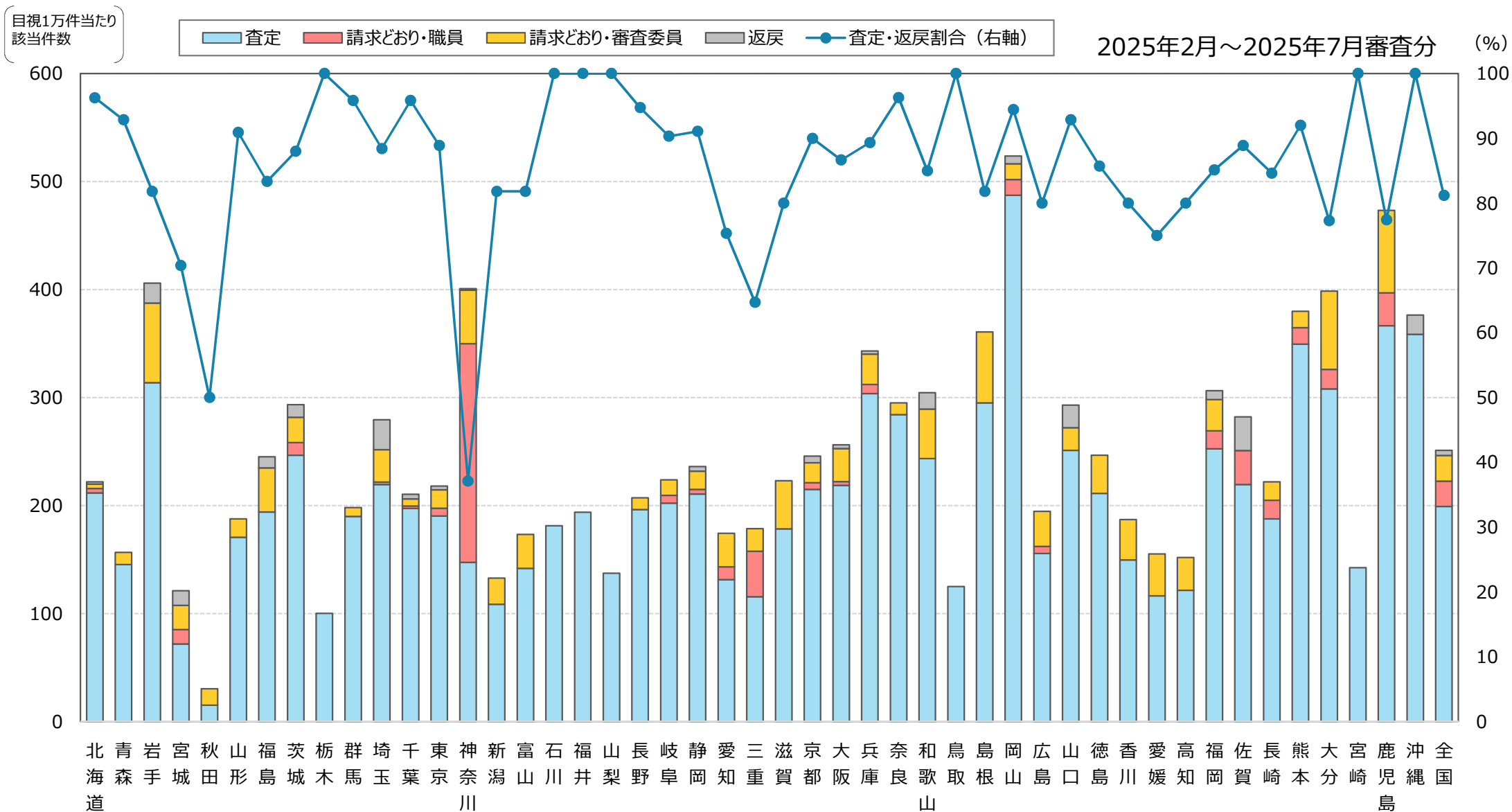
➤ 全国の査定・返戻割合 81.19%

➤ 検証対象都道府県 25

検証観点	都道府県※	備考
査定・返戻割合が低い	神奈川、三重、宮城、愛媛、愛知、大分、鹿児島、滋賀、広島、香川、高知、岩手、富山、島根、福島、長崎	査定・返戻割合の低い順
請求どおり・職員	神奈川、三重、鹿児島、大分、長崎、福岡、宮城、愛知、茨城、兵庫、東京、広島、京都、大阪、埼玉	対象1万件当たり件数の多い順
請求どおり・審査委員	鹿児島、岩手、大分、島根、神奈川、和歌山、滋賀、福島、愛媛、香川、徳島、広島、富山、愛知、大阪、高知	//

※検証対象都道府県が16を超えたため、16都道府県を限度に表記している

該当件数（全国）	【条件】	2,100件
取扱いに基づく審査	査定・返戻の計	1,705件
検証を必要とする審査	請求どおり	395件



該当件数	107	14	22	27	2	11	24	50	13	24	121	96	306	291	11	11	12	8	9	19	31	56	73	17	15	40	150	122	27	20	4	11	72	30	14	14	10	12	5	74	9	13	25	22	4	31	21	2,100
請求どおり件数	4	1	4	8	1	1	4	6	0	1	14	4	34	183	2	2	0	0	0	1	3	5	18	6	3	4	20	13	1	3	0	2	4	6	1	2	2	3	1	11	1	2	2	5	0	7	0	395

【該当件数】取扱いの趣旨に該当したレセプト件数